

ロームシアター京都 2021 年度 自主事業ラインアップ

ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
2021 年 3 月 16 日 報道発表資料

[本リリースに関するお問合せ先]

ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

広報担当：松本、長野

電話：075-771-6051（代表） FAX：075-746-3366

E-mail：press@rohmtheatrekkyoto.jp <https://rohmtheatrekkyoto.jp/>

ロームシアター京都 2021 年度 自主事業ラインアップ

<u>作品創造</u>	Sound Around 001……………2 レパトリーの創造 市原佐都子 /Q「妖精の問題」リクリエーション……………3 レパトリーの創造 関連プログラム「シーサイドタウン」を振り返る……………4 レパトリーの創造 高谷史郎 新作準備のためのトークシリーズ……………5 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XVIII……………6 ダミアン・ジャレ × 名和晃平「PLANET [wanderer]」クリエーション……………7 ジゼル・ヴィエンヌ、エティエンヌ・ビドー＝レイ「ショールームダミーズ #4」パリ公演……………8 アンディ・マンリー クリエーション
<u>京響プログラム</u>	京都市交響楽団 × 藤野可織 オーケストラストーリーコンサート「ねむらないひめたち」……………9 広上淳一 × 京響コーラス「フォーレ：レクイエム」……………10 京都市交響楽団 × 石丸幹二 音楽と詩（ことば）メンデルスゾーン：「夏の夜の夢」……………11 京響クロスオーバー オーケストラ・プレミアム 作曲家・編曲家プロジェクト「大島こうすけ × 西川貴教 × 京都市交響楽団」……………12
<u>伝統芸能の継承</u>	市民寄席……………13 能楽チャリティ公演～祈りよとどけ、京都より～ 能の世界へおこしやす～京都薪能鑑賞のための公開講座～……………14 第 71 回京都薪能 一地・水・火・風・空— 《継承と創造》1「宮古・八重山・琉球の芸能」（仮）……………15 伝統芸能入門講座
<u>ロームシアター 京都セレクション</u>	ロームシアター京都 × 京都芸術センター U35 創造支援プログラム“KIPPU”……………16 参加アーティスト：①福井裕孝 ②敷地理 KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2021 AUTUMN……………17 ぐうたららばい vol.2「海底歩行者」 太陽劇団「金夢島 L'ÎLE D'OR」（仮題）……………18 ピチェ・克蘭チェン・ダンスカンパニー「No. 60」……………19
<u>ラーニング</u>	劇場の学校プロジェクト……………20 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021「ドン・パスクワレ」……………21 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XVIII 子どものためのオペラ……………22 リサーチプログラム ロームシアター京都 × 京都市ユースサービス協会連携事業 未来のわたし - 劇場の仕事 -
<u>コミュニティ</u>	プレイ！シアター in Summer 2021 ・ステージプログラム『快傑ゾロ』アルファ人形劇場 from チェコ共和国……………23 ・ロームシアター京都 × 京都市文化会館 5 館連携事業「シアターデビュー！」促進プログラム ・オープンデイ……………24 ・京都市交響楽団 0 歳からの夏休みコンサート ホリデー・パフォーマンス……………25 OKAZAKI PARK STAGE 2021 地域の課題を考えるプラットフォーム……………26 機関誌「ASSEMBLY（アセンブリー）」……………27 「いま」を考えるトークシリーズ アセンブリープログラム……………28 音楽総合体験施設 ミュージックサロン……………29 「Made in KYOTO」音楽芸術コンテンツチャンネル「Style KYOTO」

2021 年度自主事業の企画にあたって

ロームシアター京都は、2021年1月10日に開館5周年を迎えました。「人生のなかにいつもある劇場」をキャッチコピーに、さまざまな年代の皆様にご登場いただいた記念ポスターが、年始より京都の街なかに貼り出されました。そして、シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 Vol.4『雅楽 ～現代舞踊との出会い』を皮切りに、開館5周年記念事業を開催してまいりました。新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言下で、感染拡大予防に努めながらの実施となりましたが、足を運んでくださった観客の方々の熱い拍手に励まされました。

このたび、大変厳しい年となった2020年度を経て、2021年度のロームシアター京都自主事業ラインアップを発表できることとなりました。

2021年度のラインアップテーマは「声」です。これには、大きく2つの意味を持たせており、ひとつは《自分たちの「声」(＝活動)を取りもどすこと》。そしてもうひとつは《声なき声に耳を傾けること》です。

新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大によって、舞台芸術は活動停止・縮小を余儀なくされました。舞台芸術の醍醐味と言える、集うこと、殊に声を出すことが制限されました。現在、感染予防対策が施されたうえで舞台芸術の再開が試みられていますが、海外アーティストの入国規制は続いており、2021年度も予断を許さない状況です。ロームシアター京都では、状況に応じた上演・創作環境のなかでも、自分たちの表現を追い求め、場をつくり出し、観客との関係をあきらめないアーティストたちとの協働によって、プログラムを展開していきます。また、ここ数年のBlack Lives Matterなどの高まりもあり、社会的弱者とされてきた人々のこれまで出せなかった「声なき声」に耳を傾け、想像し、共に思考する時間を持つことを、国内外の新鋭からそのジャンルを代表するようなアーティストまで、多彩なプログラムを通して提案していきます。とりわけ音楽事業では、ラインアップテーマ「声」そして「言葉」を象徴するプログラムが並び、朗読による言葉とオーケストラの出会いや声を表現手段とするパフォーマーが揃います。

ただ、残念ながら数年前より準備を進めていた、いくつかの企画は、この状況の中、苦渋の選択をし、発表前に中止・延期となったものもあることをお伝えしておきます。

また、ロームシアター京都では、2021年2月14日に実施したシンポジウム《劇場におけるハラスメントを考える「個人が尊重され、豊かな対話が生まれるために」》において、「ハラスメント防止ガイドライン～ロームシアター京都で過ごす全ての人のために～(案)」を発表しました。劇場WEBサイト上で、このガイドラインについてのご意見を募集し、それらを参考に、現在最終調整をしているところであり、2021年4月中の策定を目指しています。京都市の公共劇場として、誰もが尊重され、活発な意見交換や対話が行われる場づくりのための取り組みのひとつです。

自主事業のラインアップと劇場を開かれた場にするための試みを積み上げていくことで、ここ京都に「劇場文化」をつくり、それをどっしりと根付かせ、そして新たな芽が息吹くように引き続き努めてまいります。ぜひ2021年度もロームシアター京都の活動にご注目いただけたら幸いです。

2021年3月16日
プログラムディレクター 小倉由佳子

2021 年度自主事業ラインアップ 6つの事業カテゴリー

①作品創造

劇場の財産となる作品のプロデュースや国内外のアーティストとの協働により、ロームシアター京都を創造の場として活かした事業を展開します。

②京響プログラム

ロームシアター京都は京都市交響楽団の第2のフランチャイズホールです。音楽のみならず他ジャンルとのコラボレーションなどで京響の新たな魅力を広げます。

③伝統芸能の継承

日本舞踊、能楽、文楽、雅楽といった古典芸能に加え、地域ごと継がれてきた民俗(郷土)芸能を独自の切り口で紹介し、伝統芸能の面白さを伝えます。

④ロームシアター京都セレクション

国内外からの選りすぐりの舞台芸術作品をご紹介します。次代を担う若手アーティストの創造支援やKYOTO EXPERIMENTなど京都のさまざまな施設や団体と連携して行うプログラムもあります。

⑤ラーニング

小中高生、それぞれの年代に応じた育成事業を展開するほか、舞台芸術に関わるレクチャーやリサーチを創作・実践の場と連動して行います。

⑥コミュニティ

多様なライフスタイルと密着したプログラムや、ホールを飛び出して行う事業などを通して、京都・岡崎地域の施設や団体と連携を深め、地域の活性化に繋がります。

Sound Around 001

主催 音楽

 日程：7月17日（土）18:00
 18日（日）16:00
 会場：ノースホール


Photo: Toshiaki Nakatani

これからの音楽を考える新シリーズがスタート！

ジャンルや固定観念にとらわれない「音楽」を軸とした表現活動を行うアーティストによるパフォーマンスを紹介する新シリーズです。今回は、新型コロナウイルス感染症によって、声を発することを制限された今だからこそ、「声／言葉」をテーマにしたパフォーマンスを発信します。作曲家兼パフォーマーユニット「いまいけぶるじえくと」をホストに、音楽以外のフィールドで活動する表現者をゲストに招き、それぞれの身体や声を通したパフォーマンスと、トークの組合せによって、新たな音楽の楽しみ方を提示します。

出演（ホスト）：いまいけぶるじえくと〈今村俊博、池田萌〉

共演（ゲスト）：17日…調整中

18日…山下 残（振付家・ダンサー）、茂山千之丞（狂言師）

トークゲスト：佐々木 敦（思想家）※両日


いまいけぶるじえくと Imaike Project

作曲家兼パフォーマーの今村俊博と池田萌によるユニット。「身体」に着目し、生での体験を重視し、「音楽」を再考する試みを続けている。2014年から続けている主催公演は東京・名古屋で開催。ジャンルに限定されない境界横断を目指して、作曲家に限らず、コンテンポラリーダンサーや劇作家に書き下ろし作品を委嘱するほか、ダンサー・俳優をゲストに招くなど意欲的な活動を続けている。これまでにトーキョーワンダーサイト（現 TOKAS）オープンサイト 2016-17 参加企画に選出（第5回東京公演）。サウンドパフォーマンス・プラットフォーム 2018（愛知県芸術劇場）、ホリデー・パフォーマンス Vol.4（ロームシアター京都）等に出演。


山下 残 Zan Yamashita

振付家・ダンサー。1970年、大阪府生まれ。10代後半からダンスを始める。振付の方法論や空間への仕掛けをゲームのように制約として用い、社会的な要素としての個々人の身体を、作品を通して解放させる取り組みを行っている。代表作に、100ページの本を配り観客がページをめくりながら本と舞台を交互に見る「そこに書いてある」、スクリーンに映写される〈すう・はく〉の呼吸の記号と俳句から引用されたテキストを身体とリンクさせる「せきをしてもひとり」などがある。


茂山千之丞 Sennojo Shigeyama

大蔵流狂言師。1983年生まれ。父・茂山あきらおよび祖父・二世茂山千之丞師事。1986年『魔法使いの弟子』（NOHO劇団）で初舞台。作・演出を手掛けるコント公演「ハクマンペン」、100年後の古典を目指す新作狂言の会「新作「純」狂言集マリコウジ」を定期的に行う。「パイリンガル狂言」のほか、オペラ演出や現代劇への出演などでも活動中。2018年12月三世茂山千之丞を襲名。2019年第37回京都府文化奨励賞受賞。

チケット情報

全席自由

一般 2,500 円、ユース（25 歳以下）1,500 円、18 歳以下 1,000 円、一般セット券 4,000 円、ユースセット券 2,500 円

[5月23日（日）一般発売開始]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

レパトリーの創造
市原佐都子 / Q 「妖精の問題」 リクリエーション

主催

演劇

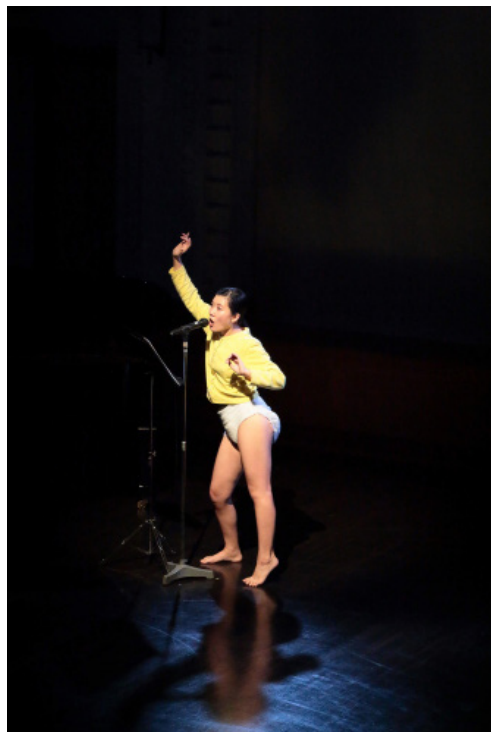
日程：2022 年 1 月下旬
会場：ノースホール

Photo: Kai Maetani

直近の岸田賞受賞作家・市原佐都子の
代表作リクリエーションをプロデュース

時代を超えて末永く上演される劇場のレパトリー演目を製作することを念頭に、2017 年から継続して取り組むプロジェクト「レパトリーの創造」。第五弾となる今回、鋭い感性と確かな筆力を高く評価され、第 61 回岸田國士戯曲賞を受賞した、才能あふれる新世代の劇作家・演出家のひとり、市原佐都子の代表作「妖精の問題」をリクリエーションのうえ、上演します。

「妖精の問題」は 2016 年に起きた障害者施設での事件をきっかけに創作されたもので、社会においてタブーとされていることを真正面から取り扱った作品です。自虐や偏見に満ち溢れた世界をコミカルに描きながら、観客を捉えて離さない強烈なメッセージが潜んでいます。

新型コロナウイルス感染症拡大により、社会のゆがみが顕在化・深刻化するいま、あらためて市原の代表作に対峙し、多様な意見を交換する場を設けます。

作・演出 市原佐都子



Photo: Mizuki Sato

市原佐都子 Satoko Ichihara

劇作家・演出家・小説家。1988 年大阪府生まれ福岡県育ち。桜美林大学にて演劇を学び、2011 年より Q 始動。人間の行動や身体にまつわる生理、その違和感を独自の言語センスと身体感覚で捉えた劇作、演出を行う。2011 年、戯曲『虫』にて第 11 回 AAF 戯曲賞受賞。2017 年『毛美子不毛話』が第 61 回岸田國士戯曲賞最終候補となる。2019 年に初の小説集『マミトの天使』を出版。同年『バックスの信女 ― ホルスタインの雌』をあいちトリエンナーレにて初演。同作にて第 64 回岸田國士戯曲賞受賞。公益財団法人セゾン文化財団セゾン・フェロー・アーティスト。

チケット情報

未定 [2021 年秋以降 一般発売開始]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

これまでの「レパトリーの創造」

2017 年度 木ノ下歌舞伎「心中天の網島ー 2017 リクリエーション版ー」

2018 年度 木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』

2019 年度 ジゼル・ヴィエンヌ、エティエンヌ・ビドー＝レイ「ショールームダミーズ #4」

2020 年度 松田正隆作・演出『シーサイドタウン』

レパートリーの創造 関連プログラム
「シーサイドタウン」を振り返る

主催 演劇

日程：6月上旬
会場：ノースホール

レパートリー作品 松田正隆作・演出「シーサイドタウン」 Photo: Toshiaki Nakatani

記録映像の上映とトークを通して、
ロームシアター京都の2020年度レパートリー作品「シーサイドタウン」を振り返る一日

松田正隆作・演出「シーサイドタウン」は2020年度の「レパートリーの創造」にて製作され、2021年1月に初演された最新のレパートリー作品です。

本企画では、「シーサイドタウン」の稽古場を記録した映像作品の上映とトークを行います。創作過程のアーカイブ、そして松田氏が強い関心を持つ演劇と映像表現の関係について議論し、今後の「レパートリーの創造」へと繋げていきます。

<内容>

- ・ロームシアター京都 レパートリーの創造およびレパートリー作品「シーサイドタウン」の紹介
- ・上映「シーサイドタウン」稽古場記録映像（ディレクション：村川拓也、撮影：米倉伸）
- ・トーク（1）「シーサイドタウン」の稽古場とプロセスのアーカイブについて
- ・トーク（2）「シーサイドタウン」から考える演劇と映像表現の関係

トーク登壇者

松田正隆（劇作家・演出家・マレビトの会代表、「シーサイドタウン」作・演出）、
村川拓也（演出家・映像作家、「シーサイドタウン」記録映像ディレクション）ほか



松田正隆 Masataka Matsuda

劇作家・演出家・マレビトの会代表

1962年、長崎県生まれ。96年『海と日傘』で岸田國士戯曲賞、97年『月の岬』で読売演劇大賞作品賞、99年『夏の砂の上』で読売文学賞を受賞。2003年「マレビトの会」を結成。主な作品にフェスティバル・トーキョー2018参加作品『福島を上演する』など。2012年より立教大学現代心理学部映像身体学科教授。2021年1月「シーサイドタウン」をロームシアター京都で初演し、10年ぶりに自身の演出作品を京都で上演する。また、ロームシアター京都「劇場の学校プロジェクト」では二年続けて講師を務めている。

チケット情報

全席自由
一般 800円、ユース（25歳以下）500円

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

レパトリーの創造

高谷史郎 新作準備のためのトークシリーズ

主催

美術・映像

日程：4月9日(金) 19:00

ほか全4回

会場：サウスホール等



「CHROMA」 Photo: Kazuo Fukunaga



「ST/LL」 Photo: Yoshikazu Inoue

ダムタイプ創設メンバー・高谷史郎との3年がかりのプロジェクトを始動

このたび、アーティスト・高谷史郎を迎えて、2023年度の新作発表を目指す中期プロジェクトを始動します。プロジェクトのスタートとなる2021年度は、創作の起点として、新作準備のためのトークシリーズを行い、登壇者や参加者との対話、交流を行います。2022年度には、ワークイン・プログレス公開を計画しています。

高谷はマルチメディアパフォーマンス集団「ダムタイプ」の創設メンバーとして、ビジュアルワークを総合的に担当した後、近年はディレクションに携わってきました。また、ダムタイプの活動と並行して、30年にわたりソロ・アーティストとしても独自の表現スタイルを追求し、常に芸術と技術の新しい実験を試み、美しさと同時に、先鋭的なアイデアで世界的に注目される作品を発表しています。音楽家 坂本龍一や彫刻家 中谷芙二子等との数々のコラボレーションをはじめ、映像作品から舞台作品まで幅広い領域で国際的に活躍しています。

本トークシリーズのスタートとなる第一回は、サウンドエンジニアの東岳志を迎えて、フィールドレコーディングの試聴を交えつつ、「音」についての思考を巡らせます。

< 第一回 >

4月9日(金) 19:00

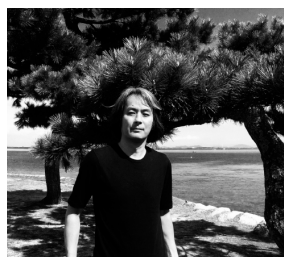
トーク出演：高谷史郎、東岳志（サウンドエンジニア）

ゲストプロフィール

東岳志（サウンドエンジニア）

フィールドレコーディングの手法で、様々な映画や音楽、舞台の音響、録音を担当。製作をしていく中で人の身体まで考える事が必要と思ひ、食と自然に焦点を当て活動。2016年、鎌倉の「山と道」と共同で京都出町に「山食音」を立ち上げる。

第二回～第四回 調整中



高谷史郎 Shiro Takatani

1963年生まれ。1984年からアーティストグループ「ダムタイプ」の活動に参加。様々なメディアを用いたパフォーマンスやインスタレーション作品の制作に携わり、世界各地の劇場や美術館、アートセンターで公演／展示を行う。1998年からダムタイプの活動と並行して個人の制作活動を開始。パフォーマンス「明るい部屋」（初演：2008年 ドイツ世界演劇祭）、「CHROMA」（初演：2012年 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール）、「ST/LL」（初演：2015年 ル・ヴォルカン国立舞台、フランス）を制作。マルセイユ・フェスティバル、東京・新国立劇場、台北・國家兩廳院等での公演や、ポンピドゥー・センター・メッス、ZKM（ドイツ）、シャルジャ・ビエンナーレ（UAE）などでの作品展示、東京都写真美術館での個展等。また、坂本龍一や中谷芙二子、野村萬斎、樂吉左衛門など、様々なアーティストとのコラボレーションも多数。ロームシアター京都では、ダムタイプ 新作パフォーマンス「2020」をクリエーションおよび発表（2020年／新型コロナウイルス感染症拡大防止のために上演中止、同年に記録映像の上映会及び配信を実施）。また、中高生人材育成事業「劇場の学校プロジェクト」では2019年度、メディア・パフォーマンス講座の講師を務めた。

チケット情報

無料、要申込

第一回は、3月20日（土）よりロームシアター京都 WEB サイトにて申込受付開始

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XVIII

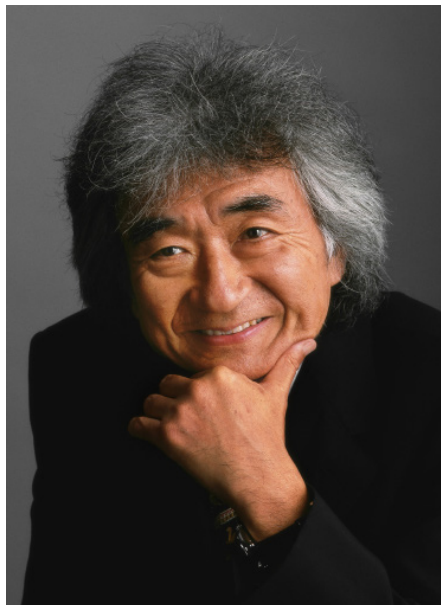
ROHM CLASSIC SPECIAL

主催

音楽

日程：2022年3月18日（金）、20日（日）

会場：メインホール



© Shintaro Shiratori

世界的な指揮者である小澤征爾が、自らの音楽経験を後進の若手音楽家に伝えることを目的に、2000年に立ち上げた教育プロジェクト「小澤征爾音楽塾」によるオペラ公演です。日本をはじめアジア各国からオーディションで選ばれる若手音楽家たちで結成するオーケストラと、一流の出演者・制作陣によって、高水準のオペラを制作・上演します。

音楽監督：小澤征爾

管弦楽：小澤征爾音楽塾オーケストラ ほか

小澤征爾音楽塾とは

小澤征爾音楽塾は、ローム株式会社の佐藤研一郎社長（当時）と小澤征爾がオペラを通じて若い音楽家を育成することを目的に、2000年に立ち上げた教育プロジェクトです。恩師カラヤンの教えである「交響曲とオペラは車の両輪のようなもの」を持論とする小澤が「教えること」に生涯を捧げたもう一人の恩師 斎藤秀雄のスピリットを受け継ぎ、若い音楽家たちとともに学ぶ場として開催しています。毎年、国内外でのオーディションで選ばれたアジア諸国（日本、中国、台湾、韓国）の若い音楽家たちでオーケストラを結成し、小澤征爾とサイトウ・キネン・オーケストラメンバーをはじめとする演奏家のもとで指導を受け、分奏や歌手とのリハーサルを重ねながら、世界の歌劇場で活躍するオペラ歌手や演出家と共に高水準のオペラ「小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト」を創り上げます。

主催：小澤征爾音楽塾／ヴェローザ・ジャパン
京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

共催：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

協賛：ローム株式会社

企画・制作：ヴェローザ・ジャパン

「ダミアン・ジャレ×名和晃平 『PLANET [wanderer]』 クリエイション

主催

舞踊

美術

クリエイション 日程：7月上旬～中旬
 会場：ノースホール、サウスホール
 本番 日程：2022年4月下旬
 会場：サウスホール



© Yoshikazu Inoue - Sandwich

京都発の彫刻家と、世界で脚光を浴びる振付家による コラボレーション作品第2弾！

2020年に予定されていたクリエイションと公演が、新型コロナウイルスの影響により延期となった作品。2016年秋にロームシアター京都で世界初演を迎え、その後も世界中で再演を重ねている『VESSEL』に続く名和晃平×ダミアン・ジャレの異分野コラボレーション作品を、ふたたびロームシアター京都にて2022年に日本初演する予定です。

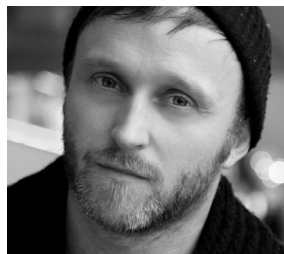
人間的／非人間的、固体／液体、彫刻／ダンスという変形し続けるもののアンビバレンスを表現した前作『VESSEL』と、今作『PLANET

[wanderer]』（以下『PLANET』）は二連祭壇画のように対をなすものとして位置づけられる作品です。副題「wanderer」は、「PLANET」の語源となるギリシャ語が持つ「さまようもの」という意味と重なります。生者と死者の境界線で、人間の身体と、宇宙世界の構成要素や重力の不可分な関係を表現する一そこに日本庭園の現代的解釈などが混ざり合うという、日本の彫刻家と欧州の振付家の共同作業ならではの唯一無二の世界観を提示します。

振付：ダミアン・ジャレ

舞台美術：名和晃平

ドラマトゥルク：ブラーブダー・ユン

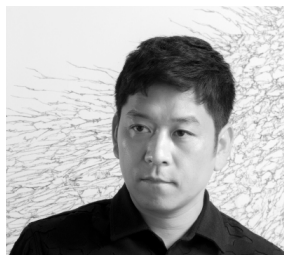


© Koen Broos

ダミアン・ジャレ Damien Jalet

振付家

ダンスをはじめ、彫刻家のアントニー・ゴームリーやミュージシャン、振付師、映画監督、デザイナーらと作品の合同制作をするほか、オペラや音楽ビデオの振付を手がけ、その活動は多岐にわたる。2013年パリ国立オペラにおいて、シディ・ラルビ・シェルカウイ、マリーナ・アブラモヴィッチと共同創作した『Boléro』を初演、フランス芸術文化勲章シュヴァリエ章を受章し好評を得た。近作として、ジム・ホッジズらとコラボレーションした『THR(O)UGH』(2015)、『BABEL 7.16』(2016、「アヴィニョン演劇祭 2016」)などがある。2017年には、イギリスのナショナル・ユース・ダンス・カンパニーのアーティスティックディレクターに任命されている。フランス国立劇場・シャイヨー劇場のアソシエイト・アーティスト。



© Nobutada Omote - Sandwich

名和晃平 Kohei Nawa

彫刻家

1975年大阪府生まれ。京都を拠点に活動。京都芸術大学教授。1998年京都市立芸術大学美術学部美術科彫刻専攻を卒業。2000年同大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。2003年同大学大学院美術研究科博士課程彫刻専攻修了。2011年東京都現代美術館で個展「名和晃平 - シンセシス」開催。ビーズやプリズム、発泡ポリウレタン、シリコンオイルなどの現代的な素材を用いて、造形の新たな可能性を切り拓く。2009年より京都にて、建築家、デザイナーなどのクリエイターと、横断的な創造活動を行うプラットフォーム「Sandwich Inc.」のディレクターをつとめる。

製作：パリ国立シャイヨー劇場（フランス）

共同製作：ロームシアター京都、東京芸術劇場、ブルターニュ国立劇場（フランス）、サドラーズ・ウェルズ劇場（イギリス）、ザンクトペルテン祝祭劇場（オーストリア）、ルーアン歌劇場（フランス）、Sandwich Inc.

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

ロームシアター京都レパートリー作品

ジゼル・ヴィエンヌ、エティエンヌ・ビドー＝レイ
「ショールームダミーズ #4」 パリ公演

舞踊

日程：11月10日（水）～13日（土）

会場：ポンピドゥー・センター（フランス・パリ）



Photo: Yuki Moriya

ロームシアター京都レパートリー作品が、
いよいよ海外進出！

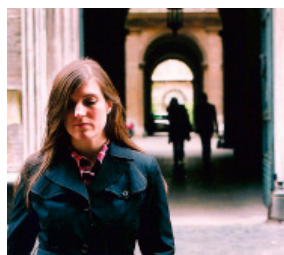
2019年度のレパートリーの創造作品としてロームシアター京都が製作し、2020年2月に初演した作品が、フェスティバル・ドートンヌに招聘され、パリで上演を行うことが決定しました！フランスの舞台芸術の最先端を体現するジゼル・ヴィエンヌが、エティエンヌ・ビドー＝レイと共に手がけた初期の代表作『ショールームダミーズ』を、当劇場のレパートリーとして再創造した作品です。

演出・振付・舞台美術：ジゼル・ヴィエンヌ、エティエンヌ・ビドー＝レイ

出演：朝倉千恵子、大石紗基子、高瀬瑠子、花島令、藤田彩佳、堀内恵

音楽：ピーター・レーバーク

照明：アルノー・ラヴィッセ／パトリック・リウー



©Patrick China

ジゼル・ヴィエンヌ Gisèle Vienne

1976年生まれ。哲学を学んだ後、フランス国立高等人形劇芸術学校に在学。振付家、演出家、美術家として活躍。小説家のデニス・クーパーとのコラボレーションのほか、写真やインスタレーション作品も積極的に発表している。2018年には、KYOTO EXPERIMENTで鮮烈な印象を与えた『CROWD』で、フランスの批評家協会賞の最優秀賞を受賞。



エティエンヌ・ビドー＝レイ Etienne Bideau-Rey

1975年生まれ。ベルギーのサン＝リュック美術学院、リエージュ王立美術アカデミー、フランスの国立高等人形劇芸術学院で学ぶ。振付家・演出家の活動の他に、ドローイングや彫刻も制作。2000年にマルセル・ブルースティン・ブランシェ職業財団賞を受賞。

製作：ロームシアター京都

主催：フェスティバル・ドートンヌ・ア・パリ（フランス）

アンディ・マンリー クリエーション

主催

演劇

日程：2021年11月中旬～12月初旬

会場：ノースホール



2019年8月のプレイ！シアター in Summer 2019 ステージプログラムで、「スティック・バイ・ミー～ぼくのたいせつでヘンテコなともだち～」を上演し好評を博したアンディ・マンリーに子ども向けの新作を委嘱します。ノースホールでの創作を経て、2022年夏、お披露目予定です。

アンディ・マンリー Andy Manley

若い観客のためのパフォーマンスを専門とする、舞台アーティスト。2006年より自身の作品を創作し、以降、イギリス国内外で公演を行う。日本では、世界中で伝説的なヒット作となった『ホワイ』や『ナイトライト』をりっかりっか＊フェスタ（国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ）等で上演している。

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

京都市交響楽団×藤野可織 オーケストラストーリーコンサート 「ねむらないひめたち」

主催

音楽

日程：6月20日（日）14:00

会場：メインホール

芥川賞作家・藤野可織の書き下ろし小説をオーケストラが彩り、物語世界へ誘う

京都市交響楽団と異ジャンルのアーティストのコラボレーションによって、オーケストラの新たな魅力を発見するシリーズ。京都生まれの芥川賞作家・藤野可織が、このコンサートのために新作小説を書き下ろします。美しくミステリアスな世界観や、独特なリズム感のある物語展開が魅力の藤野可織の作品と、クラシックの名曲が交わることによって、音楽そのものはもちろんのこと、音楽の持つ物語性を引き出します。

指揮：三ツ橋敬子
小説：藤野可織
ストーリーテラー：調整中
管弦楽：京都市交響楽団

曲目（予定）
ラヴェル：組曲「クープランの墓」より
ラヴェル：亡き王女のためのパヴァーヌ ほか

＊藤野可織によるトークを予定しています
＊新潮社発行「新潮」7月号に同小説を掲載予定

<あらすじ>

体が硬直して砂色の飴に覆われる、正体不明の伝染病が蔓延する世界で、タワーマンションに住む幼い姉妹がいた。食料の調達に出かけた父が病により昏睡し、オンラインショップの在庫が底をつき、母も眠りにつくと、ついに二人だけの暮らしが始まる。自由気ままな生活の中で、妹がSNSに投稿した写真をきっかけに「助けてあげる」とやってくる大人の男たち。バルコニーに立つ姉妹は、彼らを一人一人、スナイパーのように狙撃していくが……。



© 大杉隼平

三ツ橋敬子 Keiko Mitsuhashi

指揮者

1980年東京生まれ。16歳より指揮を学ぶ。東京藝術大学及び同大学院を修了。第10回A.ペドロッチ国際指揮者コンクールにて日本人として初めて優勝。第9回A.トスカニーニ国際指揮者コンクールにて女性初の受賞者として準優勝。2009年Newsweek Japan誌にて「世界が尊敬する日本人100人」に選出。2011年には、TBS系列ドキュメンタリー番組「情熱大陸」に取り上げられた。2013年第12回齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。



© 佐山順丸

藤野可織 Kaori Fujino

小説家

1980年京都市生まれ。同志社大学文学部卒業、同大学院美学および芸術学専攻博士課程前期修了。卒業後は、出版社でアルバイトをしながら小説を書きはじめる。2006年『いやしい鳥』で第103回文学界新人賞受賞、2013年『爪と目』で第149回芥川賞、2014年『おはなしして子ちゃん』で第2回フラウ文芸大賞受賞。近作に、『ピエタとトランジ（完全版）』『来世の記憶』がある。



© 井上写真事務所 井上嘉和

京都市交響楽団 City of Kyoto Symphony Orchestra

1956年に創立し、日本で唯一、自治体が設置し、運営に責任を持つオーケストラ。2015年「第46回サントリー音楽賞」受賞。同年6月ヨーロッパ公演で成功を収め、2016年は創立60周年記念国内ツアー等を開催し、平成28年度地域文化功労者表彰を受ける。2017年「第37回音楽クリティック・クラブ賞」本賞等を受賞。2020年4月からは第13代常任指揮者兼芸術顧問に広上淳一、首席客演指揮者にジョン・アクセルロッドが就任し、文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」として更なる前進を図っている。

チケット情報

全席指定

S席 5,000円、A席 4,000円、B席 3,000円、ユース（25歳以下）S席 3,000円 [3月28日一般発売開始]

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団） 協力：株式会社 新潮社

Ⅰ 広上淳一×京響コーラス 「フォーレ：レクイエム」

共催

音楽

日程：8月9日（月・祝）18:00

会場：サウスホール

「生と死」というテーマでつながる 2 曲をお届け

フォーレの作品の中で、もっとも演奏される機会の多い「レクイエム」。子守歌のような温かく優しい響きは、生と死への想いや安息への祈りを湛えた名作です。今回は信長貴富による編曲版を使用し、合唱の響きはそのままに、弦楽器を中心とした編成で、原曲とは違う響きを楽しめます。

「海鳥の詩」は、死と隣り合わせの厳しい自然の中に身を置く鳥たちの、強く美しい生き様が描かれます。困難を乗り越える意志を秘めたこの曲は、コロナ禍を生きる私達を鼓舞するかのようです。

廣瀬量平：混声合唱組曲「海鳥の詩」（指揮：津幡泰子、ピアノ：小林千恵）

フォーレ（信長貴富編曲）：レクイエム 二短調 作品 48

合唱：京響コーラス

弦楽合奏：京都市交響楽団

指揮：広上淳一（京都市交響楽団常任指揮者兼芸術顧問、京響コーラススーパーヴァイザー）

ソプラノ：小玉洋子

バリトン：小玉晃



© 井上写真事務所 井上嘉和

京響コーラス Kyoto Symphony Chorus

1995 年秋、京都コンサートホールが完成した当時の京響常任指揮者 & 音楽監督 井上道義の提唱で「京響第九合唱団」として結成。その後「京響市民合唱団」と改名し、2012 年からはさらに音楽的な高みをめざして、京響の自主演奏会を軸にオーケストラ合唱作品に取り組む「京響コーラス」と名称を変更、創立者の井上道義を創立カペルマイスター、京響常任指揮者 広上淳一をスーパーヴァイザーに迎えて新たにスタートした。現在、約 150 名の団員で構成されており、毎週月曜日の夜を中心に京響練習場・京都市内文化会館等で練習を行っている。

京都市交響楽団 City of Kyoto Symphony Orchestra

→ p.9 参照



© Masaaki Tomitori

広上淳一 Junichi Hirokami

指揮者

東京音大指揮科に学ぶ。26 歳で第 1 回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクールに優勝。近年では、ボルティモア響、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ミラノ・ヴェルディ響、サンクトペテルブルク・フィル、バルセロナ響、モンテカルロ・フィル、サンパウロ響、ニュージーランド響等へ客演。国内では全国各地のオーケストラはもとより、サイトウ・キネン・オーケストラ、水戸室内管にもたびたび招かれ絶賛を博している。2013 年「第 32 回藤堂音楽賞」、2015 年京響とともに「第 46 回サントリー音楽賞」、2016 年「第 36 回有馬賞」を受賞。2019 年度「京都市文化功労者」。2008 年 4 月から京都市交響楽団第 12 代常任指揮者、2014 年 4 月からミュージック・アドヴァイザーも兼務。2017 年 4 月からは札幌交響楽団友情客演指揮者も務める。2020 年 4 月から京都市交響楽団第 13 代常任指揮者兼芸術顧問に就任。

チケット情報

全席指定

2,000 円 [5 月 30 日（日）発売開始]

主催：京都市交響楽団（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

共催：ロームシアター京都

京都市交響楽団コンサート 京都市交響楽団×石丸幹二 音楽と詩（ことば） メンデルスゾーン：「夏の夜の夢」

主催

音楽

日程：9月5日（日）14:30（予定）

会場：メインホール

音楽と詩（ことば）の世界。
世界の偉大な文学作品にまつわる音楽作品を、歌と朗読で紹介する

前半プログラムは、ヴォーカリスト3人（石丸幹二、高野百合絵、鈴木玲奈）と京都市交響楽団の演奏による郷愁あふれる日本の歌を、後半は石丸幹二の朗読による、メンデルスゾーンの劇付随音楽「夏の夜の夢」全曲版上演。言葉の持つ力、輝きを与える寄り添う音楽。石丸幹二の歌と朗読が、オーケストラ演奏に彩りを与えるコンサート。

指揮：広上淳一（京都市交響楽団常任指揮者兼芸術顧問）

曲目：メンデルスゾーン：劇音楽「夏の夜の夢」（語り付き） ほか

語り・歌唱：石丸幹二

独唱：鈴木玲奈（ソプラノ）、高野百合絵（メゾソプラノ）

管弦楽：京都市交響楽団

合唱：京響コーラス（女声）

広上淳一 Junichi Hirokami

指揮者

→ p.10 参照



石丸幹二 Kanji Ishimaru

語り / 歌唱

東京音楽大学でサクソ、東京藝術大学で声楽を学ぶ。1990年～2007年、劇団四季在籍。ミュージカル界をけん引する俳優として、『オペラ座の怪人』『美女と野獣』『ラブ・ネバー・ダイ』『ジキル&ハイド』『パレード』等に出演する。ソロアルバム「My Favorite Songs」「My Musical Life」等のほか、オーケストラコンサートをライブ収録した「An EVENING with KANJI ISHIMARU」やリユート奏者つのだたかしの「武満徹のうた」等をリリースする一方、オーケストラからジャズまで多彩にコンサートを展開する。現在、テレビ朝日「題名のない音楽会」司会、FM TOKYO「Grand Seiko THE NATURE OF TIME」（土曜12時）パーソナリティを務める。クラシック音楽とは「朗読」で関わることが多く、ストラヴィンスキー「兵士の物語」、メンデルスゾーン「夏の夜の夢」など、声の表現の多様性を探っている。映像では、ドラマ「半沢直樹」「少年寅次郎」「相棒」等に出演。今年の大河ドラマ「青天を衝け」に大久保利通役で出演予定。

京都市交響楽団 City of Kyoto Symphony Orchestra

→ p.9 参照

チケット情報

全席指定

A席 6,500円、B席 5,500円 [5月発売開始予定]

主催：京都市交響楽団、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市、キョードー大阪

京都市交響楽団コンサート 京響クロスオーバー オーケストラ・プレミアム 作曲家・編曲家プロジェクト「大島こうすけ×西川貴教×京都市交響楽団」

日程：10月10日（日）15:00（予定）

会場：メインホール

大島こうすけ：交響組曲「Life～永遠（TOWA）の夢人（MUJIN）～」
- どれだけ生きれば、また君に出逢えるのだろう。（Original Edition）

主催

音楽

第一線の作曲家による作品を、京響と西川貴教の融合により表現するプロジェクト！

日本の音楽界の第一線で活躍するメロディーメーカー大島こうすけによるオーケストラ曲「Life」シリーズの第2弾。2019年発表の初演作品を書き下ろし楽曲で再構築した完全オリジナル版として上演します。前回同様のヴォーカリストは西川貴教。ネオミュージカルな世界観と京響のフルオーケストラが融合します。

指揮：岩村 力

曲目：大島こうすけ：交響組曲「Life～永遠（TOWA）の夢人（MUJIN）～」
- どれだけ生きれば、また君に出逢えるのだろう。-（Original Edition）

出演：大島こうすけ（作曲・構成・アレンジ・Pf）/ 西川貴教（Vo）/ 他
岩村 力（指揮）/ 京都市交響楽団（管弦楽）



大島こうすけ Kohsuke Oshima

音楽プロデューサー、作曲家、アレンジャー、キーボーディスト

バンド（MAN WITH A MISSION、SPYAIR etc.）から女性シンガー（May J. etc.）まで幅広いジャンルのアーティストをサウンド・プロデュースするほか、楽曲提供（嵐、倅田来未 etc.）やアレンジでも数多くのアーティスト作品を手掛け、1990年プロデビュー以降常にJ-POPシーンを湧かせる。2005年には自身もメンバーとして参加するバンドを結成しプロデュースを行っている。現在も様々なアーティストのステージ（T.M.Revolution、稲葉浩志 etc.）を巧みなキーボードプレイで支えている。映像と音楽のオリジナル手法によるコラボレーションも行っており、新しいエンターテインメントの創出においても活躍。



© Naoyasu Uema

岩村 力 Chikara Iwamura

指揮者

早稲田大学理工学部電子通信学科、および桐朋学園大学演奏学科を卒業。マスタープレイヤーズ指揮者コンクール優勝、グゼッラ国際指揮者コンクール第2位など数多くのコンクールに入賞。01年以降は、ザグレブ国際現代音楽祭、ザグレブ・フィル、バーリ響、NHK交響楽団定期演奏会への出演、アルゲリッチの要請によりパドヴァ室内管と共演するなど、国際的に活躍の場を広げている。2000-07年NHK交響楽団アシスタントコンダクター、2010年より兵庫芸術文化センター管弦楽団レジデント・コンダクター、2015年、兵庫県功労者表彰（文化功労）受賞。

西川貴教 Takanori Nishikawa

1970年9月19日生まれ。滋賀県出身。1996年5月、西川貴教のソロプロジェクト「T.M.Revolution」としてシングル「独裁 -monopolize-」でデビュー。キャッチーな楽曲、観る者を魅了する完成されたステージ、圧倒的なライブパフォーマンスに定評があり、「HIGH PRESSURE」「HOT LIMIT」「WHITE BREATH」など大ヒット曲を連発する。故郷滋賀県から初代「滋賀ふるさと観光大使」に任命され、県初の大型野外ロックフェス「イナズマロックフェス」を主催、自治体の協力のもと、毎年滋賀県にて開催している。令和二（2020）年度滋賀県文化功労賞受賞。



京都市交響楽団 City of Kyoto Symphony Orchestra

→ p. 9 参照

チケット情報

全席指定

8,000円 [発売日未定]

主催：京都市交響楽団、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市、株式会社12DO

市民寄席

主催

演劇

会場：サウスホール

1957年にスタートし、京都では恒例の落語会として長く親しまれてきた「市民寄席」。
幅広い世代に笑いを届ける上方落語の生の迫力と寄席の雰囲気をご体験ください。



口上（撮影：佐々木卓男）

第355回 市民寄席 5月25日（火）19:00

【番組・出演】

露の新幸 「兵庫船」
桂吉坊 「初音の鼓」
桂三象 「アメリカ人が家にやってきた」（桂三枝作）
笑福亭呂鶴 「住吉駕籠」

第356回 日程：7月27日（火）19:00
第357回 日程：9月26日（日）13:30
第358回 日程：11月16日（火）19:00
第359回 日程：2022年1月23日（日）13:30

チケット情報

全席指定

第355回、第356回、第358回：前売 1,800円 当日 2,000円 ユース（25歳以下）1,500円

第357回、第359回：前売 2,300円 当日 2,500円 ユース（25歳以下）1,500円

年間席札 8,000円、ユース（25歳以下）6,000円

〔第355回：3月16日（火）一般発売開始〕

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

能楽チャリティ公演 ～祈りよとどけ、京都より～

共催

演劇

日程：8月25日（水）
第1部 10:30 / 第2部 18:30
会場：サウスホール



京都在籍の能楽師有志による能楽チャリティ公演を開催します。

【第1部】

能「田村 替装束」 前シテ 片山伸吾 後シテ 河村晴道

狂言「柿山伏」 シテ 茂山忠三郎

能「鍾馗」 シテ 林宗一郎

【第2部】

半能「右近」 シテ 吉田篤史

狂言「舍弟」 シテ 茂山千之丞

能「鞍馬天狗 白頭」 前シテ 井上裕久 後シテ 片山九郎右衛門

チケット情報

全席自由 1,500円 〔6月1日（月）一般発売開始〕

主催：京都在籍能楽師有志

共催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、国際交流基金京都支部

能の世界へおこしやす ～京都薪能鑑賞のための公開講座～

主催

演劇

学び

 日程：6月1日（火）、2日（水）両日 14:00
 会場：メインホール


京都薪能を通じて能と狂言の世界をお楽しみいただくために、出演者による公開レクチャーを今年も実施します。能の謡や囃子、狂言の体験を交えた解説の後に、ダイジェスト版の能も鑑賞できます。

出演：京都薪能出演能楽師

■ プログラム

・挨拶と能楽の解説

能楽師代表が挨拶、及び能と狂言についての全体的な解説を行う。

・能「高砂」の謡と泣く型（シホリ）の体験

シテ方観世流能楽師またはシテ方金剛流能楽師が、能「高砂」の待謡「高砂やこの浦船に帆をあげて」より「はや住之江に着きにけり」までを観客と共に謡い、また能の泣く演技である、手で涙を抑える所作くシホリも観客と共に行う。

・囃子と狂言の解説及び掛け声や笑う型の体験

能の囃子を代表する笛方・小鼓方・大鼓方・太鼓方の能楽師が、各楽器の特長及び役割について説明し、囃子を代表して大鼓方の能楽師が鼓を打つ際の掛け声を観客と共に行う。

また、大蔵流狂言師が狂言の特徴及び役割について説明し、狂言の代表的な所作く笑ヒを観客と共に行う。

・舞囃子「嵐山」の解説と鑑賞

能「嵐山」のあらすじを説明し、その見どころを観世流と共に金剛流の舞囃子形式で上演することによって、それまでに体験した能の型や囃子の掛け声などを、実際に玄人の能楽師による舞台を通じて体感し、より深い能楽の魅力に迫る。

チケット情報

全席自由 無料・申込不要／お問合せは京都いつでもコール（661-3755）。3月29日（月）～6月2日（水）まで

主催：京都市、一般社団法人京都能楽会、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

第71回京都薪能 —地・水・火・風・空—

共催

演劇

日程：6月1日（火）、2日（水）両日 18:00

会場：平安神宮特設能舞台 ※雨天の場合はメインホール

能の普及と発展をめざして毎年開催され、今や京都の初夏の風物詩となった京都薪能。平安神宮特設の能舞台が闇夜に浮かび上がり、幻想的な雰囲気が辺りを包みます。観世・金剛・大蔵の各流派による能や狂言が楽しめる特別な夜です。



6月1日（火）

観世流能「竹生島」（前シテ）吉浪壽晃 （後シテ）橋本光史

観世流能「葵上」（シテ）浦田保親

大蔵流狂言「水掛簀」（シテ）茂山千之丞・茂山七五三

金剛流能「土蜘蛛」（前シテ）廣田幸稔 （後シテ）豊嶋幸洋

6月2日（水）

観世流能「白鬚」（シテ）古橋正邦

金剛流能「松風」（シテ）金剛永謹

大蔵流狂言「神鳴」（シテ）茂山忠三郎

観世流能「土蜘蛛」（前シテ）河村和貴 （後シテ）大江信行

チケット情報

全席自由 前売券 4,000 円、当日券 5,000 円 [4月24日（土）一般発売開始]

主催：京都市、一般社団法人京都能楽会 共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

「継承と創造」1 「宮古・八重山・琉球の芸能」(仮)

主催

舞踊

日時：2022年2月11日(金・祝)、
2月12日(土)
会場：サウスホール



宮古の芸能：宮古創作舞踊（穂花会）



八重山の芸能：結願祭（西表島古見）



琉球の芸能：琉球古典音楽独唱（親川遥）

「シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能」を発展させ、 民俗（郷土）芸能の魅力にフォーカスする

ロームシアター京都と那覇文化芸術劇場なは一と（2021年10月開館）の共同企画として、「島々の祈り」等をテーマに、宮古・八重山・琉球の舞踊と唄を上演します。那覇文化芸術劇場なは一とでは、これから落としシリーズのひとつとして実施予定です。宮古・八重山・琉球それぞれの専門家や研究者に監修をお願いし、各々の特徴を際立たせた演目を並べ、地域で継承され、あらたに創造されてきた芸能を一度に鑑賞できる貴重な機会となります。

ロームシアター京都では、2017年度より「シリーズ舞台芸術としての伝統芸能」において、日本舞踊、能楽や文楽、雅楽などを新たな切り口で紹介してきました。今後は、古典芸能に加え、地域ごとに継承されてきた民俗（郷土）芸能を含むシリーズに発展させ、伝統芸能の魅力をお伝えしていきます。

監修：宮古の芸能：前里昌吾（「宮古島創作芸能団 んきゃーんじゅく」プロデューサー）

八重山の芸能：大田静男（八重山芸能研究者）

琉球の芸能：遠藤美奈（沖縄県立芸術大学 准教授。民族音楽学・沖縄芸能研究）

技術監督・コーディネート：関 秀哉（株式会社 流）

協力：沖縄県立芸術大学

企画：ロームシアター京都、那覇文化芸術劇場なは一と

チケット情報

全席指定 料金未定 [9月17日(金) 一般発売開始]

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

「伝統芸能入門講座

主催

演劇

舞踊

学び

日程：2021年秋 開講予定

木ノ下歌舞伎主宰で、古典芸能 / 伝統芸能に関する執筆、講座など多岐にわたる活動が注目されている木ノ下裕一を案内人とする伝統芸能入門講座を開講します。



© 東直子

木ノ下裕一 Yuichi Kinoshita

木ノ下歌舞伎主宰

1985年和歌山市生まれ。2006年、京都造形芸術大学在学中に古典演目上演の補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。代表作に『勸進帳』『義経千本桜一渡海屋・大物浦』『娘道成寺』『心中天の網島』など。2016年に上演した『勸進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。第38回（令和元年度）京都府文化賞奨励賞受賞。平成29年度京都市芸術文化特別奨励制度奨励者。渋谷・コクーン歌舞伎『切られの与三』（2018）の補綴を務めるなど、古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。

**ロームシアター京都×京都芸術センター
U35 創造支援プログラム “KIPPU”**
参加アーティスト：①福井裕孝 ②敷地理

主催

演劇

舞踊

日程：① 7月2日(金)～4日(日) 予定

② 2022年2月(調整中)

会場：ノースホール



左) 福井裕孝『デスクトップ・シアター』ワークインプログレス (2019)

右) 敷地理『happy ice-cream』(2020) YDC2020 Photo: Sugawara Kota

①福井裕孝「デスクトップ・シアター」

演出 | 福井裕孝 吉野俊太郎

舞台美術 | 古舘壮真

ドラマトゥルギー | 朴建雄

②敷地理「循環、都市、律動、私たちの最後の7分間」

演出・振付・出演・美術 | 敷地理

出演 | shin-sei (ラッパー) ほか

※いずれも詳細は決まり次第、ロームシアター京都、京都芸術センター、各団体の公式 WEB サイトなどで告知いたします。

**次代を担う若手アーティストが京都から羽ばたく！
新たな創造支援プログラムの4年目**

若手アーティストの発掘と育成を目的に、ロームシアター京都と京都芸術センターが協働して行う制作支援プログラム「KIPPU」、4年目は、福井裕孝(京都)、敷地理(東京)の2名を採択しました。

福井裕孝は演出家として、〈人〉〈もの〉〈空間〉の関係に着目しており、演劇という枠組みを用いてそれらの関係性を照射することで、既存の世界を捉え直したいと考え、数々のアプローチを試みています。新作「デスクトップ・シアター」では、ものを置く、人が集まるというテーブルの基本的な機能を劇場のイメージと重ね合わせ、〈もの〉と〈人〉が新たなかたちで共同する舞台のあり方を模索します。

敷地理は、振付家、演出家、ダンサーとして活動しています。人体彫刻におけるポージングの選定と舞踊における振付の類似点、またメディアとしての生身の身体への関心から留学先のベルリンで本格的にパフォーマンスを作り始めました。他者を通して自分の現実感を捉えること、身体の境界を確認し、曖昧にすることに関心を持ち創作しています。上演する作品は2019年に初演したインスタレーションパフォーマンスを元にし、新しい出演者を迎え、再構築します。

※過去の参加団体／アーティスト

2018年度 ブルーエゴナク(北九州)、安住の地(京都)、akakilike(京都)

2019年度 お寿司(京都)、オル太(東京)

2020年度 中川裕貴(京都)、シラカン(神奈川)、スペースノットブランク(東京)



Photo: Toshiaki Nakatani

福井裕孝(京都) Hiroataka Fukui

1996年生まれ、京都府出身。演出家。人・もの・空間の関係を演劇的な技法を用いて再編し、その場の全体的な状況を異なる複数のスケールとパースペクティブから捉え直す。近年は、『インテリア』(2018, 2020)、『マルチルム』(2019)など、天井・周壁・床面によって仕切られた「部屋」という空間単位から作品の製作を行う。


敷地理(東京) Osamu Shikichi

振付家、演出家、ダンサー。外側から自分を見ることが不可能な中で、物質的に自分と最も近い他者を通して自分の現実感を捉えることを主題に制作を行う。その過程で身体的臨界状態をつくり、その境界を確認し曖昧にすることに関心を持つ。最近の活動に「happy icecream」(YDC2020)、「振動する固まり、ゆるんだ境界」(TPAM2020 Fringe)など。

チケット情報

①席種・料金未定 [5月13日(土) 一般発売開始] ②未定

主催：ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)、京都市

※上記は企画の主催クレジットとなります。各公演は、主催：参加団体、共催：ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)、京都市で開催します。

**【フェスティバル】 KYOTO EXPERIMENT
 京都国際舞台芸術祭 2021 AUTUMN**

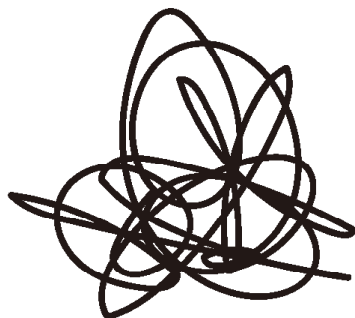
主催

演劇

舞踊

音楽

美術・映像

 日程：10月1日（金）～24日（日）
 会場：サウスホール、ノースホール、京都芸術センター、
 京都芸術劇場 春秋座、THEATRE E9 KYOTO ほか


KYOTO EXPERIMENT

チケット情報

未定

主催：京都国際舞台芸術祭実行委員会

[京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都芸術大学 舞台芸術研究センター]

実験的な舞台芸術を紹介するフェスティバル

KYOTO EXPERIMENT は、2010 年より京都市内で開催している舞台芸術祭です。世界各地の「EXPERIMENT（エクスペリメント）＝実験」的な舞台芸術を創造・発信し、芸術表現と社会を新しい形の対話でつなぐことを目指しています。演劇、ダンス、音楽、美術、デザイン、建築などジャンルを横断した実験的表現が集まり、そこから生まれる創造、体験、思考を通じて、新たな可能性をひらいていきます。

春に続き今年は KYOTO EXPERIMENT 2021 AUTUMN として秋にも開催。国内外の先鋭的なアーティストによる作品を上演する「Shows」、京都および関西地域をアーティストとともにリサーチし未来の創作基盤につなげていく「Kansai Studies」、トークやワークショップなど鑑賞とは異なるフォーマットで、舞台芸術に限らず先端的な思考に触れる「Super Knowledge for the Future [SKF]」の3つのプログラムで展開します。

ぐうたららばい vol.2 「海底歩行者」

共催

演劇

 日程：10月30日（土）、31日（日）両日 15:00
 会場：ノースホール

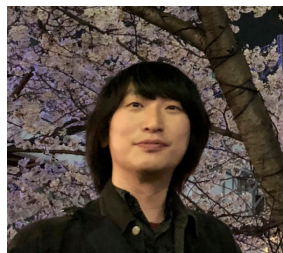

ぐうたららばい vol.1『観光裸』より（於：元・立誠小学校）

 糸井幸之介の個人ユニットによる2作目は、
 海底を歩いているような夫婦の心を描く二人芝居

2020 年に予定されていた公演を延期して開催します。妙なミュージカル、「妙一ジカル」を上演し人気を博す FUKAIPRODUCE 羽衣の座付作家・演出家の糸井幸之介。ロームシアター京都レパートリー作品、木ノ下歌舞伎『心中天の網島』『糸井版 摂州合邦辻』の演出も担っています。糸井の個人ユニット「ぐうたららばい」が新作を引っ提げて、京都にやってきます。

作・演出・音楽：糸井幸之介

出演：伊東沙保、キムユス（FUKAIPRODUCE 羽衣）



糸井幸之介 Yukinosuke Itoi

1977 年東京生まれ。劇作家・演出家・音楽家。2004 年に女優の深井順子により旗揚げされた FUKAIPRODUCE 羽衣の全作品で作・演出・音楽・美術を手掛ける。全編の7割ほどを演者が歌って踊る、芝居と音楽を融合した独自の作風を“妙一ジカル”と称し、唯一無二の詩的作品世界と、耳に残るオリジナル楽曲で高い評価を得ている。世田谷区芸術アワード“飛翔”2008 年度舞台芸術部門受賞。FUKAIPRODUCE 羽衣第 22 回公演『瞬間光年』（2017 年上演）にて第 62 回岸田國士戯曲賞最終候補。多摩美術大学講師。公益財団法人セゾン文化財団シニア・フェロー。

チケット情報

全席自由 一般 3,000 円、ユース（25 歳以下）2,000 円 [発売日未定]

主催：ぐうたららばい、合同会社 10月17日

共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

I 太陽劇団「金夢島 L'ÎLE D'OR」(仮題)

日程：11月6日(土)、7日(日) 両日 14:00 予定
会場：メインホール

主催

演劇



京都賞受賞アーティスト、アリアヌ・ムヌーシュキン率いる 伝説の劇団「太陽劇団」(フランス) 20年ぶり、2度目の来日にして初の関西公演が実現！

創設 57 年目を迎えるフランスの太陽劇団は、歴史と政治を主題とした国際的評価の高い傑作を生み出し続けている世界有数の伝説的劇団のひとつです。ヒエラルキーを排した独特の劇団組織と方法論としての集団創作によって舞台芸術の創造を原理から捉え直し、古今東西の伝統芸能を参照することで舞台表現を革新し続けています。

太陽劇団の作品には、演出家であるアリアヌ・ムヌーシュキンが若き日に心酔したという日本の能や歌舞伎、文楽の影響が垣間見えます。本作「金夢島 L'ÎLE D'OR」も、2019 年に京都賞を受賞して来日したムヌーシュキンが滞在中の交流やリサーチを通して着想を得たもので、コロナ禍の中でも日本の能楽師や演劇関係者とのワークショップが行われてきました。

「金夢島 L'ÎLE D'OR」の創作には、長年にわたって太陽劇団と劇作面で協働してきたエレヌ・シクスーも参加し、2021 年春に予定されているパリの本拠地劇場での初演に向けて準備が進められています。

20 年ぶりの日本公演、そして初めてとなる関西での公演にぜひご注目ください。

演出：アリアヌ・ムヌーシュキン



© Pascal Gallepe

太陽劇団 Théâtre du Soleil

1964 年にフランスで旗揚げされた太陽劇団は、パリ郊外の「カルトゥーシュリ」(弾薬庫跡)を拠点にスペクタクルな演劇作品を創作し、世界中で上演活動を行っている。ヒエラルキーを排した独特の劇団運営、集団創作の方法論を持つことでも知られている。2001 年に初来日し、『堤防の上の鼓手』(新国立劇場)を上演。文楽のエッセンスを大胆に取り入れた作品が大きな話題を呼んだ。



© Archives Théâtre du Soleil

アリアヌ・ムヌーシュキン Ariane Mnouchkine

演出家。1939 年パリ生まれ。イギリスで心理学を学ぶ中、オールド・ヴィック座でシェイクスピア劇に触れ演劇の道に入る。フランスに帰国後、ジャック・ルコック国際演劇学校に学び、ソルボンヌの古代劇研究会に所属する。ギリシャ劇の上演に女性の活躍する場が無かったことから、1960 年に演劇集団 A.T.E.P.(Association Théâtrale des Étudiants de Paris) (パリ学生演劇協会)を結成。1962 年に A.T.E.P. を解散し、日本やカンボジアを巡り現地の演劇表現を学ぶ。1964 年に A.T.E.P. のメンバーを中心に太陽劇団を設立。以後半世紀以上に渡り、演出家として活躍。その功績が評価され、2019 年に京都賞(思想・芸術部門)を受賞した。

チケット情報

全席指定

S 席 8,000 円、A 席 6,000 円、B 席 5,000 円、ユース (25 歳以下) S 席 5,000 円 [7 月 24 日(土) 一般発売開始]

主催：ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

共同招聘：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場

「フランス フェスティバル 2021-2022」公式プロジェクト

後援：在日フランス大使館/アンスティチュ・フランス日本 特別協賛：公益財団法人稲盛財団

■関連プログラム：アリアヌ・ムヌーシュキンを招いてのトークイベント

日程：11 月 3 日(水・祝) 時間未定

会場：京都芸術劇場 春秋座(京都芸術大学内)

主催：ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市、京都芸術大学 舞台芸術研究センター

ピチェ・クランチェン・ダンスカンパニー
「No. 60」

主催

舞踊

 日程：12月3日（金）19:00、4日（土）14:00
 会場：サウスホール


© Hideto Maezawa

タイ古典舞踊の技術をベースに新たな舞踊言語を開拓するピチェ・クランチェンによる、59のポーズと動きからなる型に続く、“No. 60”を見出す挑戦。

『No. 60』は、タイの振付家・ダンサーのピチェ・クランチェンが20年に渡って行ってきた、タイの古典仮面舞踊劇「コーン」の振付言語に関する研究をまとめたものです。この作品でクランチェンは、仮面やきらびやかな衣装といった形式をコーンから引き剥がしつつ、タイ古典舞踊の型「テーパノン」が定め、タイの古典舞踊家なら誰もが習得する59のポーズと動きを検証していきます。そして彼は6つの新しい原則を作り出し、手書きの図とメモからなる次世代のためのマニュアルを提示します。

クランチェンは抽象化された形式的論理と、模倣にもとづく情緒的な性質というコーンの振付における二つの構成要素を分解し、『No. 60』を通じて現代的な展開のための即興の可能性をも示します。古典の硬直性を解体するとともに、タイで受け継がれてきた感覚や精神を受け入れることで、伝統と革新は対立するものではなく、ひとつの循環の中に位置し、その間に複雑な対話が存在することを明らかにし、この独裁の時代における個人の思考と機動力を後押しするのです。

演出・振付・出演：ピチェ・クランチェン
 出演：コーンカーン・ルーンサワーン
 CGアーティスト：Jaturakorn Pinpech
 音楽／音響デザイン：Zai Tang
 照明デザイン：Jui Hsuan Tseng

ドラマトゥルク：Tang Fu Kuen
 プロデューサー／カンパニー・マネージャー：Sojirat Singholka
 プロダクション・マネージャー：Cindy Yeong

初演：TPAM（国際舞台芸術ミーティング in 横浜）2020



Photo by Chanathip Keawsuk for DONT magazine

ピチェ・クランチェン Pichet Klunchun

伝統の核心と智慧を保持しつつ、タイの古典舞踊の言語と現代的感覚をつなげる振付家／ダンサー。国内では古典舞踊「コーン」を現代化する試みで悪名を高めつつ、北米、他のアジア諸国、ヨーロッパでは国際的舞台芸術フェスティバルに参加している。タイ古典舞踊の強力な地盤を持つ若いダンサーを育て、純粋に芸術的なパフォーマンスを創り出すため、ピチェ・クランチェン・ダンスカンパニーを設立。京都では、2010年にKYOTO EXPERIMENT2010で『About Khon』を上演している。

チケット情報

全席指定

一般 3,500 円、ユース（25 歳以下）2,000 円、18 歳以下 1,000 円 [9 月 18 日（土）一般発売開始]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

委嘱・共同製作：Esplanade – Theatres on the Bay（シンガポール）

共同製作：TPAM – 国際舞台芸術ミーティング in 横浜、台北舞台芸術センター

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）、独立行政法人日本芸術文化振興会

■関連プログラム：ピチェ・クランチェンによるワークショップ

日程：12月5日（日）時間未定

会場：ロームシアター京都

I 劇場の学校プロジェクト

主催

演劇

舞踊

美術・映像

学び

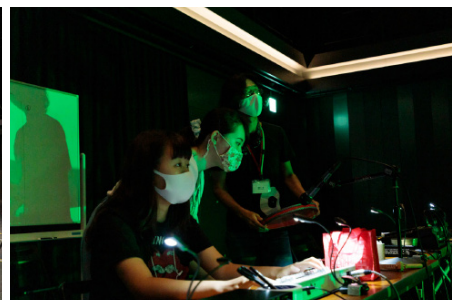
日程：7～8月、12月



演劇コース



舞踊コース



メディア表現コース（3点とも）©金サジ（umiak）

2019年度からスタートしたロームシアター京都の「劇場の学校プロジェクト」。2年間でのべ122名の中学生、高校生などが参加しました。3年目は「演劇」「舞踊」「メディア表現」の3つのコースを設け、国内外の第一線で活躍するアーティスト等が講師を務めます。各分野の表現について、参加者自身が身体を動かし、考え、共に「創る」ことに取り組みます。また、戯曲を書く、舞踊史を知るなど、コースに関連した多様なオープンクラスも実施します。表現活動において必要な想像力、他者との対話、身体への意識が、これからの社会を生き抜く術でもあると考え、参加者とともに劇場での学びの場をつくる試みです。

【講師】

演劇コース：岡田利規（演劇作家／小説家／チェルフィッチュ主宰）

舞踊コース：木田真理子（ダンサー）

メディア表現コース：山城大督（美術家・映像作家） ほか

コースを横断して参加できるレクチャーも実施します。



© Kikuko Usuyama

岡田利規 Toshiki Okada

演劇作家／小説家／チェルフィッチュ主宰

1973年横浜生まれ、熊本在住。演劇作家、小説家、チェルフィッチュ主宰。活動は従来の演劇の概念を覆すとみなされ国内外で注目される。『三月の5日間』で第49回岸田國士戯曲賞受賞。小説集『わたしたちに許された特別な時間の終わり』で第2回大江健三郎賞受賞。16年よりミュンヘン・カンマーシュピーレのレパートリー作品演出を4シーズンにわたって務め、20年『The Vacuum Cleaner』がドイツの演劇祭 Theatertreffen の“注目すべき10作品”に選出。『プラターナー：憑依のポートレート』で第27回読売演劇大賞 選考委員特別賞受賞。21年戯曲集『未練の幽霊と怪物 挫波／敦賀』で第72回読売文学賞 戯曲・シナリオ賞受賞。



© Hironori Tsukue

木田真理子 Mariko Kida

ダンサー

ローザンヌ国際バレエコンクール受賞後、カナダ、スウェーデンでプロダンサーとして活動し、ブノワ賞（ロシア）、レオニード・マシーン賞（イタリア）、文化庁長官表彰（国際芸術部門）など受賞。スウェーデン王立バレエ団での活動後、2016年よりフリーランスに転身し、ピナ・バウシュ・ヴッパタール舞踊団に客演するなど各国で活躍。現在、立命館大学大学院先端総合学術研究科でダンス研究に取り組んでいる。共著に『22世紀の荒川修作＋マドリン・ギンズ——天命反転する経験と身体』（フィルムアート社、2019年）がある。



Photo: Nobutada OMOTE

山城大督 Daisuke Yamashiro

美術家・映像作家。映像の時間概念を空間やプロジェクトへ応用し、その場でしか体験できない〈時間〉を作品として展開する。インスタレーション作品『VIDERE DECK』で第18回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品受賞。主な展覧会に森美術館「六本木クロッシング2016展：僕の身体、あなたの声」。子どもと共創するプロジェクト「子どもと大人と社会の現場『NENNE | ねんね』」を2018年より始動。京都芸術大学専任講師。ロームシアター京都では、プレイ！シアター2018にて、映像や音、光による上演型インスタレーション「風をたべる、光をのむ」を発表。

企画製作：ロームシアター京都

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021
「ドン・パスクワレ」

主催

音楽

 日程：10月26日（火）
 27日（水） 両日 13:00
 会場：メインホール


2019年新国立劇場公演より／撮影：寺司正彦

「高校生のためのオペラ鑑賞教室」では、ロームシアター京都の開館以来、『フィガロの結婚』、『蝶々夫人』、『魔笛』と上演を重ねてきました。今回は初めて、ドニゼッティの代表作『ドン・パスクワレ』を上演します。2019年に新国立劇場で新制作されたこの舞台は、オペラの楽しさの真髄を伝える作品として、オーソドックスながら繊細な表現や効果的な展開に感性が光る演出で大評判となりました。大金持ちの老人ドン・パスクワレが、甥エルネストの恋人ノリーナと医師のマラテストに泡ふかされるドタバタ劇が、魅力的な音楽とともに繰り広げられます。

演目：ガエターノ・ドニゼッティ作曲
 「ドン・パスクワレ」全3幕＜イタリア語上演／字幕付＞

指揮：阪 哲朗
 演出：ステファノ・ヴィツィオーリ

管弦楽：京都市交響楽団
 合唱：新国立劇場合唱団

ドン・パスクワレ：久保田真澄
 マラテスト：森口賢二
 エルネスト：中井亮一
 ノリーナ：九嶋香奈枝 ほか

チケット情報

全席指定

高校生以下 2,200 円、一般 4,400 円

※高校生向けの公演です。残席がある場合に限り、一般にチケットを販売します。

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、新国立劇場
 助成：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
 協賛：ローム株式会社

小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XVIII 子どものためのオペラ ローム クラシック スペシャル

 日程：2022 年 3 月
 会場：メインホール

主催

音楽



毎年恒例となった、京都府内の小学生を対象としたオペラ公演です。本公演と同じ舞台で繰り広げられる、迫力あるオペラの上演（一部抜粋）はもちろん、工夫を凝らした楽器紹介コーナーも魅力。オペラ鑑賞が初めての子どもたちも、楽しく体験出来る企画となっています。

音楽監督：小澤征爾

管弦楽：小澤征爾音楽塾オーケストラ

チケット情報

京都府内小学生招待公演

主催：小澤征爾音楽塾／ヴェローザ・ジャパン

京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

共催：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

協賛：ローム株式会社

企画・制作：ヴェローザ・ジャパン

リサーチプログラム

主催

学び

日程：通年

※ 2022 年 3 月に最終報告会を予定



2019 年度最終報告会の様子

ロームシアター京都では、プログラム策定のためのリサーチ、舞台芸術に関わる研究・批評分野と実践の場をつなげる若手人材の育成を目的に、2017 年度よりリサーチプログラムを実施しています。2020 年度は、6 名のリサーチャーが、重点テーマである「現代における伝統芸能」「子どもと舞台芸術」、「舞台芸術のアーカイヴ」、そして新たに設けられた自由テーマでリサーチに取り組みました。2021 年度に向けて、リサーチャーを募集します。

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市
 助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）、独立行政法人日本芸術文化振興会

ロームシアター京都×京都市ユースサービス協会連携事業 未来のわたし - 劇場の仕事 -

日程：通年

主催

学び



ロームシアター京都と京都市ユースサービス協会の連携事業として実施し、2021 年度で 5 年目となります。本事業は、15 ～ 30 歳の若者を対象に、ロームシアター京都を職業体験の場として活用したもので、現役職員から制作基礎知識を学び、公演の観客誘導や受付、創作現場の稽古場サポートを体験するなどして、劇場の仕事に触れます。このプログラムを通して、参加者が、劇場や舞台芸術の現場にとどまらず、自分のキャリアデザインを意識してもらうことを目的にしています。

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、公益財団法人京都市ユースサービス協会、京都市

プレイ！シアター in Summer 2021 ステージプログラム 『快傑ゾロ』 アルファ人形劇場 from チェコ共和国

主催

演劇

日程：8月8日(日) 11:00、15:00
会場：ノースホール



こどもたちの夏休みのために、人形劇王国チェコから、歴史ある人形劇団が来日！

2020年に予定されていた公演を延期して開催します。現代チェコ人形劇最高の演出家であるトマーシュ・ドヴォジャーク監督の最新作「快傑ゾロ」。世界的に著名なメキシコのゾロ伝説を、人形劇ならではのリズミカルなテンポとスピーディーな展開で、ユーモアと風刺たっぷりに描いた作品です。チェコの古典的なマリオンネットを用い、マリアッチ（メキシコ民族音楽楽団）形式の楽師による陽気な生演奏が物語を盛り上げ、迫力ある舞台美術が劇場空間をゾロの世界に導きます。

出演：アルファ人形劇場

あらすじ

快傑ゾロは、強さをくじき弱さを助ける、真の紳士。彼が現れた後には、Zの印が刻まれ、これが彼のトレードマークであった。ある日、美しい娘イザベラは軍人から求愛される。さらにイザベラの母親は地主の放蕩息子との結婚を用意する。しかしイザベラは男気溢れる軍人や恥ずかしがり屋の放蕩息子よりも、紳士的で強く優しいおたずね者の快傑ゾロに心惹かれている。そして紆余曲折の果てに明かされる快傑ゾロの正体は・・・。



アルファ人形劇場 Divadlo Alfa

世界遺産の町並みと芸術文化の魅力あふれるチェコ共和国は、人形劇が盛んな国としても知られています。なかでもピルゼン市は、人形美術家ヨゼフ・スクパや映像作家イジー・トルンカを輩出した、チェコを代表する人形劇の町です。そのピルゼン市を拠点とするアルファ人形劇場は、チェコの伝統的作品のみならず、プーシキンやシェイクスピアなど他国の古典や新作にも取り組みながら、高い芸術性とエンターテインメント性で世界を魅了する、チェコ最高峰の人形劇団です。

チケット情報

全席自由 おとな 2,500 円、こども（18 才以下）1,000 円、おとな＋こどもペア 3,000 円 [6 月 19 日（土）一般発売開始（予定）]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

協力：ブーク人形劇場

助成：チェコ共和国文化省

特別協賛：ローム株式会社

プレイ！シアター in Summer 2021 ロームシアター京都×京都市文化会館 5 館連携事業 「シアターデビュー！」促進プログラム

主催

演劇

日程：未定

会場：京都市東部文化会館、京都市呉竹文化センター、京都市西文化会館ウエスティ、京都市北文化会館、京都市右京ふれあい文化会館

京都市内の文化会館と協働し、乳幼児向けの作品上演とそれを巡るトークを行います。地域のこどもたちが初めて劇場に足を運ぶ＝「シアターデビュー！」の機会をつくり、これを契機に地元コミュニティと劇場の結びつきを深めます。

主催：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団（ロームシアター京都、京都市東部文化会館、京都市呉竹文化センター、京都市西文化会館ウエスティ、京都市北文化会館、京都市右京ふれあい文化会館）、京都市

プレイ！シアター in Summer 2021 オープンディ

主催

演劇

舞踊

音楽

美術・映像

日程：8月14日（土）、15日（日）

会場：全館



Photo: Toshiaki Nakatani



撮影：山地憲太



Photo: Takuya Matsumi



Photo: Toshiaki Nakatani



撮影：山地憲太

今年も開催！家族や友達と楽しめる、 ロームシアター京都の夏休み恒例イベント

毎年恒例の大好評イベントを今年も開催します。“気軽に遊べる劇場”として、こどもから大人まで劇場を満喫できるもりだくさんの2日間。ご家族、お友達を誘ってロームシアター京都におこしください！

チケット情報

無料、申込不要（予定）

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市
特別協賛：ローム株式会社

プレイ！シアター in Summer 2021 京都市交響楽団 0歳からの夏休みコンサート 京都市動物園コラボレーションスペシャル

主催

音楽

日程：8月14日（土）11:00、14:00

会場：メインホール



撮影：山地憲太

劇場が動物園に変身！?

今年は、ロームシアター京都と同じ、京都・岡崎エリアにある「京都市動物園」とのコラボレーションスペシャルです。動物にまつわる曲の演奏や、動物たちの映像などを交えたコンサートを予定しています。どうぞお楽しみに。

指揮：垣内悠希

オーケストラ：京都市交響楽団 ほか



© Jean Philippe Raibaud

垣内悠希 Yuki Kakiuchi

指揮者

1978年東京生まれ。6歳よりピアノを始め、14歳より指揮の勉強を始める。2011年ブザンソン国際指揮者コンクール優勝。これまでに小澤征爾、佐藤功太郎、レオポルド・ハーガー、ヨルマ・パヌラ、ジャンルイジ・ジェルメッティ、エルヴィン・アッツェル、イザーク・カラブチェフスキー、湯浅勇治の各氏に師事。2001年東京藝術大学楽理科を、2009年ウィーン国立音楽大学指揮科を首席で卒業。次いで2011年同音大劇場音楽科特別課程を修了。2016年より3年間札幌交響楽団指揮者を務めた。

チケット情報

全席指定

小学生以上 800円、未就学児無料 [6月19日（土）一般発売開始]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市 協力：京都市動物園

「ホリデー・パフォーマンス」

主催

音楽

 日程：6月27日（日）、12月（予定）
 会場：パークプラザ3階共通ロビー など（予定）

音楽のイメージを超える“音楽”に出会える機会

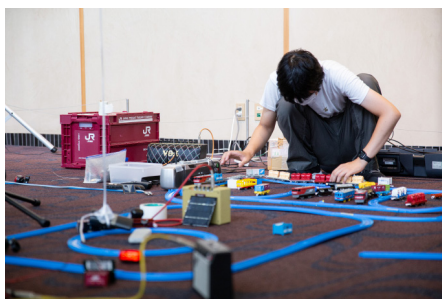
音楽を中心としたパフォーマンスを無料でお楽しみいただけるシリーズです。

ジャンルにとらわれない多様な音楽やパフォーマンスを紹介し、日常で気軽にアートに触れる機会を創出します。

今年は、「声／言葉」というテーマに沿ったアーティストが登場します。

Vol.8 6月27日（日） 出演：低音デュオ

Vol.9 12月（予定） 出演者未定



（3点全て）Photo: Toshiaki Nakatani



◎ 長澤直子

低音デュオ teionduo

松平敬（バリトン、声）、橋本晋哉（チューバ、セルパン）による異色デュオ。2006年、湯浅譲二《天気予報所見》のバリトン、チューバ版の初演を機に結成、以来30曲を超える委嘱、初演を行ってきた。また、中世、ルネサンスの二声曲も継続的に演奏、シュールでポップな「低音による二声曲」の世界を拓いている。コジマ録音より2枚のCD、『ローテーション』、『双子素数』を発表。

チケット情報

無料、申込不要

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

「OKAZAKI PARK STAGE 2021」

主催

音楽

美術・映像

 日程：10月1日（金）ほか
 会場：ローム・スクエア

毎年恒例のステージが今年も登場！

ロームシアター京都の中庭「ローム・スクエア」での特設ステージを舞台に、多彩なイベントや飲食が楽しめる空間「OKAZAKI PARK STAGE」が現れます。



撮影：山地憲太



Photo: Toshiaki Nakatani



Photo: Toshiaki Nakatani

チケット情報

無料、予約不要

企画製作：ロームシアター京都

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

地域の課題を考えるプラットフォーム
「仕事と働くことを考える」

主催

学び

日程：7月～2022年1月（計4回開催）

会場：パークプラザ3階共通ロビー、ノースホール

劇場を地域における思考と対話の場にする試み
トークとアーティストによる発表を通して仕事と働くことを考える

ロームシアター京都が2017年度から取り組んでいる「地域の課題を考えるプラットフォーム」では、地域と劇場の双方向的なコミュニケーションを目指し、さまざまな取り組みを行ってきました。今年度は、地域社会の中で誰もが関係する「仕事」と「働くこと」を取り上げ、劇場でのトークやディスカッションを通して、普段の生活では気づかない視点や切り口を探ります。劇場が、地域に住むさまざまな人にとっての思考と対話の場になることを目指す試みです。

また、今年度の活動に伴走するアーティストとして、昨年度のこのプログラムの中で自身の舞台作品「Pamilya（パミリヤ）」の映像上映を行った村川拓也が参加します。

<内容>

・「仕事と働くことを考える」トークセッション（計3回）

3回ごとにテーマを設け、専門家や地域の中で活動する方々とのトークセッションを行います。

日程：7月～12月

会場：3階共通ロビー

・「仕事と働くことを考える」報告会

演出家・映像作家の村川拓也による小さな発表を行います。

日程：2022年1月

会場：ノースホール



村川拓也 Takuya Murakawa

演出家・映像作家。1982年生まれ。京都市在住。ドキュメンタリーやフィールドワークの手法を用いた作品を、映像・演劇・美術など様々な分野で発表し、国内外の芸術祭、劇場より招聘を受ける。1人のキャストとその日の観客1人を舞台上に招き、介護する／されることを舞台上に再現する『ツァイトゲーバー』（2011）は国内外で再演され、2014年にはHAU Hebbel am Ufer（ベルリン）の「Japan Syndrome Art and Politics after Fukushima」にて上演された。村川から事前に送られてきた手紙（指示書）に沿って舞台上の出演者が行動する『エヴェレットゴーストラインズ』（2013）などの作品群は、虚構と現実の境界の狭間で表現の方法論を問い直し、現実世界での生のリアリティとは何かを模索する。2016年には東アジア文化交流使（文化庁）として中国・上海／北京に滞在しワークショップを行う。近作、『インディペンデント リビング』はKYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2017で初演し、テアターフォルメン（ブラウンシュバイク、2018）に招聘された。セゾン文化財団ジュニア・フェロー、京都芸術大学舞台芸術学科 非常勤講師。

チケット情報

未定

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

| 機関誌「ASSEMBLY (アセンブリー)」

学び

発行メディア・発行時期検討中



ロームシアター京都自主事業として2017年度より実施しているプログラム「リサーチプログラム」、「いま」を考えるトークシリーズ」と連携する機関誌です。「リサーチプログラム」に参加するリサーチャーによる寄稿などを掲載しています。2021年度は発行形式を見直して実施する予定です。

VOL.01 [PDFはこちら](#)VOL.02 [特集] 集まりの現在 [PDFはこちら](#)VOL.03 [特集] 子ども／子供／コドモを考える [PDFはこちら](#)VOL.04 [特集] 古典のダイナミズム [PDFはこちら](#)VOL.05 [特集] 観光と芸術 [PDFはこちら](#)

VOL.06 [特集] 記憶／記録／アーカイブ

(2021年3月発行予定)

VOL.07 [特集] 芸術とお金 (2021年3月発行予定)

| 「いま」を考えるトークシリーズ

日程：年4回開催

会場：オンライン、3階共通ロビー (予定)

機関誌「ASSEMBLY」と連動したトークシリーズ。多様な角度から同時代の社会を知り、捉え直すためのトピックを挙げ、それにまつわるゲストを招きます。複雑化し、混迷する現代を「いかに生きるべきか」。その手がかりを探り、ともに考えていきます。

チケット情報

無料、事前申込優先

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

[これまでの「いま」を考えるトークシリーズ]

Vol.1：定常型・高齢化社会の“創造的”生き方を考える

<2017年12月16日（土）開催>

ゲスト：広井良典（京都大学こころの未来研究センター教授）、菅原直樹（OiBokkeShi主宰、俳優、介護福祉士）

Vol.2：多数決と民主主義～「わたしたちの意思」の表現とは

<2018年2月2日（金）開催>

ゲスト：坂井豊貴（慶應義塾大学経済学部教授）、岡田利規（演劇作家、小説家、チェルフィッチュ主宰）

Vol.3：セクシュアルマイノリティと社会をつなぐ、芸術表現の可能性

<2018年3月17日（土）開催>

ゲスト：山田創平（社会学者／京都精華大学全学研究機構社会連携センター長・人文学部准教授）、森栄喜（写真家）

Vol.4：AI（人工知能）と音楽の未来

<2018年3月24日（土）開催>

ゲスト：三輪真弘（作曲家、情報科学芸術大学院大学 IAMAS 教授）、山崎雅史（ソフトウェア技術者）

Vol.5「家族」という他者を見つめる

<2018年11月10日（土）開催>

ゲスト：ヤン ヨンヒ（映画監督）、井上麻矢（劇団こまつ座代表）

Vol.6 帝国のまなざし：「人間の展示」と博覧会

<2018年12月8日（土）開催>

ゲスト：小原真史（映像作家／キュレーター）、吉見俊哉（東京大学大学院情報学環教授／東京大学出版会理事長）

Vol.7 あなたとわたしの菌未来

<2019年3月9日（土）開催>

ゲスト：辨野義己（理化学研究所 辨野特別研究室 特別招聘研究員）、鈴木康広（アーティスト）

Vol.8 障害と芸術の関係をめぐって

<2019年3月30日（土）開催>

ゲスト：長津結一郎（九州大学大学院芸術工学研究院助教）、村川拓也（演出家）

Vol.9 観光と都市のモビリティそしてアート

<2020年1月11日（土）開催>

ゲスト：阿部大輔（龍谷大学政策学部教授）、塚原悠也（アーティスト、contact Gonzo、KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクター）

Vol.10 観光と定住のあいだー誰のための“都市デザイン”？

<2020年1月19日（日）開催>

ゲスト：五十嵐太郎（建築史家・建築批評家、東北大学大学院工学研究科教授）、高山明（演出家）

Vol.11 舞台芸術のアーカイブの現在－高等教育機関における実践と課題

<2021年2月17日（水）オンライン開催>

登壇者：赤間 亮（立命館大学アート・リサーチセンター副センター長）、後藤隆基（早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 助教）、砂山太一（京都市立芸術大学 准教授 芸術資源研究センター）、森下隆（慶應義塾大学アート・センター 土方巽アーカイヴ）
モデレーター：福島幸宏（東京大学 大学院情報学環 特任准教授）

Vol.12 芸術とお金 ーポスト・コロナの文化芸術支援

<2021年2月17日（水）オンライン開催>

登壇者：石綿祐子（公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 企画室 オリンピック・パラリンピック文化戦略担当課長）、杉浦幹男（アーツカウンシル新潟／みやざき プログラム・ディレクター）、杉崎栄介（アーツコミッション・ヨコハマ（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）プログラム・オフィサー）、野村政之（長野県県民文化政策課文化振興コーディネーター）
モデレーター：橋本裕介（ロームシアター京都プログラムディレクター）

■ アセンブリープログラム

ロームシアター京都では、市民に憩いの場を提供し、新しい“京都会館”＝ロームシアター京都を象徴するプログラムのひとつとして、日常的に「アセンブリープログラム」を開催しています。“アセンブリー”という名称には、京都会館の英語表記「Kyoto Assembly Center」にある、「集会」や「会議」という開館時に込められた思いを引き継ぎつつ、幅広い教養や知識を気軽に得られる大学等の課外授業のイメージを込めています。



アセンブリープログラムは、「ほんものとの出会い」を作り出す京都岡崎 蔦屋書店（カルチャー・コンビニエンス・クラブ株式会社）と連携し、賑わいを生み出すために行うさまざまなイベントの総称です。ロームシアター京都が目指す劇場文化を育むための入り口として、気軽に参加できるマルシェや読書会などのプログラム、一般参加型のワークショップなどのプログラム、ロームシアター京都自主事業と連動したプログラム、地域施設・団体と連携したプログラムを展開しています。

【過去開催したアセンブリープログラムの一例】

- ・マルシェ（京の手づくりマルシェ ほか）
 - ・ワークショップ（カゴ編みワークショップ、しめ縄ワークショップ ほか）
 - ・トークイベント
 - ・展示企画
- ほか

音楽総合体験施設 ミュージックサロン

場所 パークプラザ 3 階



ミュージックサロンは、音楽とさまざまな形で触れあえる施設です。本格的な音響施設を備えた 120 インチスクリーンでのオペラ等の鑑賞や、音楽家によるコンサート、専門家によるセミナーなど随時開催しています。

入場無料 ※一部整理券が必要な場合あり

共同運営：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団、公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

共催：ローム株式会社

「Made in KYOTO」音楽芸術コンテンツチャンネル 「Style KYOTO」始動！

京都発「Made in KYOTO」の音楽芸術作品を、ライブストリーミングやアーカイブとして紹介する映像プラットフォーム「Style KYOTO」をスタートさせます。ロームシアター京都や京都市交響楽団のコンテンツを配信するほか、芸術系大学や団体と連携し、京都の今を感じるチャンネルに育てていきます。

企画・運営：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

運営パートナー：株式会社 12DO（CURTAIN CALL クラシック専門ストリーミングサービス）